

# 神戸市老連における 高齢者同士の支え合い

## ボランティア登録により、 組織的に日常生活を支援

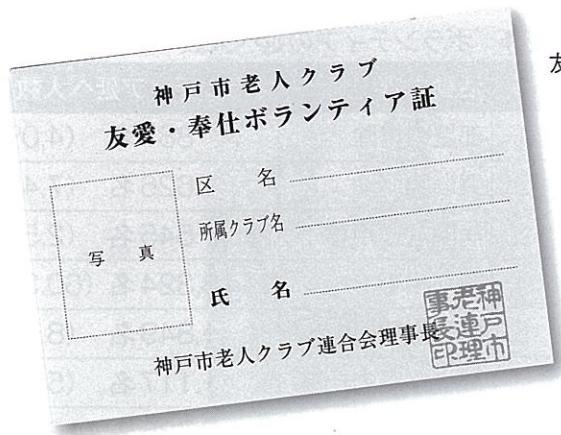
神戸市老連（475クラブ、会員数36707名）では、友愛・奉仕事業として、清掃・買い物などの日常生活支援を中心とする10の活動について、会員の中からボランティアを募り、支援を要する高齢者の要望に応じて派遣をしています。活動は、その内容により、単位クラブにおいて取り組むもの、区老連において取り組むものがありますが、全体として地域の高齢者への支援体制が構築されています。市老連の友愛事業は、平成5年から実施した「老人介護者派遣事業」に始まり、平成18年から現在の事業として範囲をより広くして実施してきています。本誌では、組織的に推進しているこの事業について紹介します。

### 高齢者を支援する10の活動項目

事業の具体的な活動内容は、次のとおりです。それぞれの活動の取り組み主体を右側に記載しています。6、7の活動は、事情により両方（クラブ、区老連）にあてはまるものです。また、1～3の活動は全クラブに掃除や買い物物のボランティアが整っているわけではないので、そ

活動内容	取り組み主体
1 簡単な部屋の掃除	単位クラブ
2 日常生活用品の買い物	
3 病院・区役所などへの用務代行	
4 話し相手	
5 施設などへの慰問	区老連
6 電球取替など簡単な屋内仕事	単位クラブまたは区老連
7 庭木の整理など簡単な屋外仕事	
8 スポーツ指導	区老連（単位クラブへ講師派遣）
9 手芸など趣味指導	
10 芸能指導	

友愛・奉仕ボランティア証



の場合は区老連において調整します。

1～3の活動は、神戸市の助成を得て「高齢者相互支援友愛活動事業」（以下、「相互支援事業」とする）として実施している、この事業にあたる「高齢者相互支援友愛活動推進員」には謝礼（1時間500円、4時間まで）が支払われます。

### 区老連ごとに ボランティアを調整

市内9区老連では、ボランティア活動を調整する担当者において、次の手順により派遣につなげています。市老連では、担当者による友愛・奉仕事業推進チーム会議を隔月で開催して、情報共有に努めています。

#### 1 ボランティアの募集

##### 「私が出来ること」を登録

活動の担い手は、活動を希望する会員です。単位クラブにPRして、友愛・奉仕ボランティアを募っています。

希望する会員は前述の10の活動項目のなかで、「私が出来る」活動を明確に

して、ボランティア登録申込書を区老連へ提出します。申込書は市老連へ届けられ、市老連から「友愛・奉仕ボランティア証」が発行されて、登録が完了します。また、ボランティアの中から「高齢者相互支援友愛活動推進員」を選定して登録しています。

#### 2 ボランティアの派遣

会員からのボランティアの派遣依頼は、区老連で受けます。区老連では「受付処理票」に依頼者、派遣先、依頼業務、希望日時などの必要事項を記載して、担当者が希望日に活動できるボランティアを探します。

ボランティアが決まれば、依頼人と依頼内容を伝え、直接依頼人と話し合ってから活動にのぞんでもらっています。支援に費用を要する場合は、依頼人の負担になります。

また、会員以外の高齢者からボランティアの派遣依頼があった場合は、市老連で受け付けて、近隣のボランティアにつないでいます。

#### 3 活動報告

活動終了後、ボランティアは区老連に



買い物を終えて、ボランティアと共に

会員の中でも一人暮らしや高齢者夫婦世帯が多くなり、日常生活で不便を感じる人が多くなったことから、平成19年に「見守り訪問グループ」を結成して、市老連にボランティア登録をしました。

活動は、話し相手となって高齢者の相談にのる「訪問グループ」、買い物や病院への付添い、屋内外の簡単な仕事をする「行動グループ」に分かれて行っています。ここでは「行動グループ」の活動を中心に報告します。

買い物は、地域に商業施設がなく、最も近いところは山の中腹のため坂道で、バス停も遠いことから不便をきたしていました。そこで毎月第一・二・四・五週の金曜日と第三木曜日を「買い物の日」と定めて、10時から12時までの2時間、近くのショッピングセンターまでボランティアの車で送迎しています。

### 神戸市北区 青葉クラブにおける活動実践

(会員数80名、会長 久保三男)

現在、3名のボランティアが10名12名の利用者に対応して喜ばれています。利用者は、前日までにボランティア担当者に電話連絡して、ボランティアが参加人員に応じた車の手配をしています。参加者が多い場合は車で約10分のところを何回か往復します。銀行や郵便局、ホームセンターに向くこともあります。

病院への付添いや薬局の受け取り送迎についても事前に調整することとしていますが、緊急を要する支援要請もあります。

平成24年度は、買い物支援に延べ393台、病院関係に15台の車を出しました。

今後は、①一人暮らし高齢者の事故防止の取り組み ②会員の協力による緊急連絡簿の整備 ③買い物支援ボランティア及び利用者の拡大に取り組んでいきたいと考えています。

図2 利用(要支援)者の状況

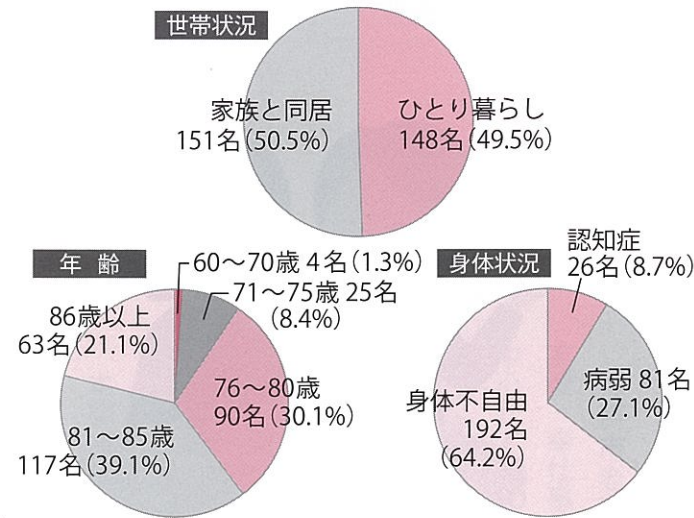


表1 ボランティアの延べ人数

活動内容	ボランティア延べ人数(割合)
1 部屋の掃除	887名 (4.0%)
2 買い物	1,626名 (7.4%)
3 病院など用務	545名 (2.5%)
4 話し相手	13,324名 (60.3%)
5 施設慰問	1,849名 (8.4%)
6 簡単な屋内仕事	1,117名 (5.1%)
7 簡単な屋外仕事	2,735名 (12.4%)
友愛事業合計	22,083名

### 活動実績

#### ●ボランティア登録者

現在の老人クラブ会員によるボランティア登録者は1316名、そのうち助成事業を担っている高齢者相互支援友愛活動推進員は638名です(平成26年3月31日現在)。

#### ●友愛事業の実績

平成24年度に友愛事業を行ったボランティアの延べ人数は、上表1のとおりです。話し相手が6割を占め、相互支援

報告をします。

なお、区老連の調整を必要としない、近所の会員に対する日常的支援など単位クラブや周辺クラブの範囲で処理された事例、高齢者施設への訪問や奉仕活動など区老連で計画的に実施された事例は、単位クラブ会長や区老連責任者から別途区老連に報告されます。

区老連ではこれらの報告を月ごとに取りまとめ、市老連に活動状況の報告を提出します。

事業(1~3の活動)は13.8%になります。

#### ●利用(要支援)者の状況

相互支援事業(1~3の活動)における利用者(299名)の状況は上図2のとおりです。ひとり暮らしと家族同居は半々、身体が不自由な方が6割以上、年齢は76歳以上が9割を占めます。

ボランティアを調整する担当者による友愛・奉仕事業推進チーム会議の庄野方志副座長は、次のとおり話しています。「ボランティアを必要としていても遠慮して申請しない方も多いので、会員には、友人が必要な方がいたらボランティア活動の利用を勧めたい」と話しています。少しずつですが利用が伸びてきました。

私自身、交通事故に遭った時には、この活動の大事さにあらためて気づかされました。これから老人クラブで会員増強運動を展開する際にも、高齢者相互の支援活動を行っていることは、未加入の高齢者にとって魅力になるのではないのでしょうか」